



1 2 3 全商品を2割引で販売した上野焼陶芸館では、連日陶芸ファンが念入りに品定め。4 窯元の軒先では奉仕品の売り出しも。5 日韓若手作家交流展で来日した韓国作家の皆さん。6 日韓の個人的な作品が並んだギャラリー陶。7 大人気の韓国料理は、数時間で完売。

Pickup Topics



陶芸館に隣接する上野の里ふれあい市では「農産物大売り出し」が開かれ、豚汁無料サービスをはじめ、手料理や旬の食材が割引価格で店頭に。来客者を温かくもてなしました。

従来の内容に日韓交流の魅力が加わった今年の陶器まつり。開祖・尊権の時代から刻まれてきた4百年以上の歴史と伝統があふかきそ開花した陶の里ならではのイベントでした。

初夏を思わせる陽気に包まれた4月25日から3日間、35回目の陶器まつりが多彩な催しに彩られました。参加16窯元では、お買い得な割引商品やチャリティ商品が販売され、空くじなしのスタンラリーも大好評。期間中は無料バスが陶芸ファンをお目当ての窯元まで運びました。そして今年も、陶芸館のギャラリー陶で、「日韓若手作家

第35回 上野焼春の陶器まつり

主催 / 上野焼協同組合 後援 / 福岡県・福岡市ほか

日韓交流の彩り添えて



鮮やかなツツジも陶芸ファンを迎えた上野焼春の陶器まつり。4月25日から3日間、陶の里は約1万人の人出で賑わいました。韓国若手作家も来日した今回、上野焼の歴史と趣、懐の深さを改めて感じた催しとなりました。

交流展」を開催。上野焼青年部、巴会による若手作家の日韓交流展は、今年で9回目を数えます。これまで日韓交互に開催し、国内では主に福岡市内で開催されていた展示会ですが、今回、そのつながりが実を結び、上野での開催が実現しました。会場では巴会6人と韓国作家10人の個性豊かな作品が訪れる人の興味を惹き、会場前では来日した作家7人が郷土料理を調理、出来たての本場の手けやチヂミが飛びように売れ、数時間で完売していました。

福智の風

命にかかわる悪循環を引き起こすメタボリックシンドローム。この予防を重視したのが特定健診と特定保健指導です。しかしこの制度、受診率と改善率が悪ければ後期高齢者医療に拠出する町の負担が増額されることに...。国保財政の負担が増えれば、いずれは加入者の負担に跳ね返ってきます。未受診・不健康・負担増の悪循環を好転させるためにも、そしてあなたのため、家族のために、受けてください！ 健診。(長野

蜜のほのかな香りに誘われながら、藤の花を撮っているときに、たくさんのハチがいました。ハチを怖がる子どもたちに「逃げんでいいよ。悪いことせんかったら刺されんから大丈夫。ハチは全然こわくないよ」といいました。でも実は子どものころ、ハチの巣に悪さをしようとして追いかかれ、刺されたことを思い出していました。「ブーン」という羽根の音に内心ビクビクしていました。(昌太郎

今月号の広報から、およそ半分がモノクロ印刷となりました。モノクロにはモノクロの良さがあるのですが、実際は鮮やかな写真の色が失われてしまうのは、やっぱり寂しいものです。全体のページ構成も大幅に変更。見づらい点もあるかと思いますが、取材に応じてくれたかたや、いつも読んでくださっているかたが納得できるような紙面作りを工夫していきたいと思っています。今後も変わらぬご協力をお願いします。(日吉

籬保館・はな句会
 籬を揺る銀先の手際よく
 思ひ出は柱のみずに子供の日
 蒼天に命かざして白木蓮
 フリージアの香に誘はれて庭巡る
 桜散る人の世の憂さ散らすかに
 高らかに老いの歌声園五月
 遅れじと急ぐ過路や石南花
 喜びの串飾るべく牡丹剪る
 遠き子の安否気遣ふ母子草
 藪の中のっそり坐る蓑

池田一步選
 熊谷カツミ
 大久保幸子
 末松トモ子
 田口さとし
 本島真知子
 桑野 園女
 柴田 ヒサエ
 中西ナエル
 持九テル子

福智町金田公民館俳句教室
 岩井兔童選
 春の旅足の先まで解放感
 行く春の長押に残る槍二本
 国花てふ氣品に咲きし桜かな
 穴を出し蛇恍惚と日浴びをり
 散る花にラジオ体操一二三
 種浸す納屋に古びし伊勢暦
 陶土打つ等間隔や日の永し
 轉や獅子の口より神の水
 置いて来し携帯電話京の春
 文庫本読みて江戸恋ふ日永かな

日比生利子
 永尾喜美江
 建部三由紀
 松岡 萬枝
 香月 雷子
 長副美恵子
 今井三千代
 迫田 昌子
 小川 雪
 花石かほる

方城句会
 池田一步選
 花吹雪足どり軽く買ひ物に
 爛漫の桜に映えて浮御堂
 春愁や目も口もなき和紙人形
 春落葉まもなく後期高齢者
 深窓の山芍薬の清々し
 遠景は離なりしや記憶また
 一隅に花菜残して銀洗ふ
 しゃぼん玉向ふに姉の少女の瞳
 春霞盆地の我家包み来る
 病める目を掌で擦りては桜観る
 花菜漬察の夕餉に里心

永末 公恵
 野村 鈴子
 松本美根弥
 桑野 昌宜
 白石 凡子
 波達 一枝
 尾崎 和子
 藤井耿之介
 杉 フジエ
 倉石嘉代子
 木村 誠一

四季の歌

心映の投句

俳句短歌教室の詠歌紹介

菜の花の咲く岸に寄り餌ついはむ鳴はそなふか北帰行へ
 春の日に迎へられしや芍薬の紅き新芽が土を持ち上ぐ
 山里に麦の芽青く伸びて見ゆ遠き日友と踏みし想ひ出
 白梅のつぼみ日毎にふくらみて楽しむ窓辺ほのぼのとして
 芍薬の咲きて香れる坪庭にうす紅やさし春の雨降り

阿野富司生
 白石 信子
 越智 早苗
 武藤 鶴代
 佐竹喜久雄